

平成24年度発掘調査遺跡の紹介

ろく たん だ みなみ 六反田南遺跡

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

遺跡は日本海から直線距離で約200mの海川^{うみかわ}下流右岸、標高3～6mの沖積地^{ちゅうせきち}に立地します。発掘調査は北陸新幹線及び国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち、平成18年から継続実施しており、縄文時代、古墳時代前期・後期、古代(奈良・平安時代)に集落が営まれていたことが分かっています。現在は、下層と呼んでいる縄文時代中期前葉～中葉の集落を調査中です。集落廃絶後の地面を約1mもの洪水堆積層^{こうずいたいせきそう}が覆うことで、非常に良好な状態を保っていました。これまであまり類例のない遺構や、微細な遺物があることなどから、慎重に調査を進めています。

遺構

廃棄域/盛土状遺構 土器や石器^{れき}、魚や動物の骨などが大量に出土する範囲です。縄文人が長い年月の間、食物残滓^{しょくもつざんし}(食べカス)など様々なものを廃棄した結果、何層にも重なり盛土状に堆積しています。長さ52m、幅約8mで、東西方向に弧を描くように見つかりました。厚い所では50cmを測ります。堆積土は微細な遺物を探すために水洗いしています。

列石 約40mにわたって検出しました。廃棄域に平行するように延び、東端は海側に折れ曲がります。長さ50cmを超える大型の礫を中心にして構成されています。石材のほとんどは、遺跡から直線で約2kmの所を流れる早川産^{はやかわ}のヒン岩^{びんがん}で、西に約5km離れた姫川産^{ひめかわ}の砂岩がわずかに見られます。5～8個の礫からなるまとまりが確認でき、これらが数珠つなぎとなって、直線状に並んでいます。列石は廃棄域と居住域の仕切りと見ることもできますが、縄文のマツリに伴う記念物と考えられます。今後の調査で列石の層位^{じゆず}を把握して、構築時期を明らかにする予定です。



近景(西から) 列石が目立ちます



廃棄域の土層堆積状況

竪穴住居 3棟を確認しています。SI8040は洪水堆積層が円形に落ち込んでいたことなどから検出できました。平面形は南北に長い楕円形を呈しています。深さは25cmです。竪穴住居中央部では、長さ15cm程の扁平な礫4個で構成された、正方形の小さな炉を検出しました。炉の底には土器片が敷いてあります。竪穴住居の周囲には、周堤と呼ばれる土手状の高まり（写真では黒色のドーナツ状の部分）が確認できました。これは雨水の浸入を防ぐもので、竪穴住居を掘った土を盛ったものと考えられます。

埋設土器 深鉢を土中に埋納したもので、乳幼児の埋葬施設と考えられます。廃棄域から多数見つかりました。出土状態は口縁部を上にした正位と、口縁部を下にした逆位（伏甕）があります。甕に見合った大きさの土坑内に置いたもの、地面に直接置いて甕に土を覆い被せたものが確認できます。とくに後者では、平らに敷き詰めた土器片上に伏せたものが多く確認できます。甕はそのほとんどが胴下半部を欠いており、埋葬のための作為と見られます。

遺物

縄文時代中期前葉～中葉の膨大な遺物が出土しています。土器は石川県や富山県を分布の中心とする新崎式、上山田・天神山式土器を主体として、東北系・越後系があります。なかでも火炎土器様式の一つである王冠型土器が見つれた状態で出土したことは特筆できます。石器は蛇紋岩製の磨製石斧・打製石斧、工具類（磨石・敲石・砥石など）、狩猟具（石鏃）、漁撈具（石錘）、ヒスイ原石、黒曜石などがあります。また、魚や動物の焼けた骨、炭化した種子などの微細遺物が多く見つっています。これらを分析することにより、縄文人の生活や周辺環境が推測できると考えています。



竪穴住居（SI8040）検出状況



土器片上に伏せた深鉢



王冠型土器



出土した石器とヒスイ原石

平成22年度重要遺跡確認調査の紹介

や ち 地 遺 跡

(胎内市大字八幡地内)

現在、平成22年度に調査した野地遺跡の調査報告書を作成しています。ここでは、出土した縄文時代晩期前葉（今から約3,000年前）の「編物敷土坑」について、最新情報を報告します。

すでに『埋文にいがた74号』[平成23年3月18日刊行]で紹介したとおり、オニグルミの殻が詰まった状態で検出されたこの土坑（穴蔵）は、周囲の土ごと切り取って持ち帰り、新潟県埋蔵文化財センターでクリーニングを行いました。土坑は長さ125cm×幅100cmの楕円形をしています。土坑の底から極めて保存状態の良い編物が出土しました。詳細な観察の結果、編物には次のように2種類あることが分かりました。



土坑の底に敷かれた編物とカゴ

敷物

元々大きな敷物として製作されたものが、いくつかに分割され、土坑の底に敷き詰められていました。竹や笹を縦に割いてヒゴを作り、それを4本程度1組にして縦・横交互に編む「網代編み」です。特に注目されるのは編物の縁辺部が良好な状態で残っていたことで、シナノキの樹皮で縁を結び止めた様子を明瞭に観察することができます（左下の写真）。

カゴ

縦材と横材を交差させ、それに別の材で1本単位に絡める「もじり編み」で製作されています。材料にはマツタビの蔓を割いたものが使われ、土坑の隅からねじれた状態で出土しました（右下の写真）。

今回の調査では、編物敷土坑の性格を具体的に解明することはできませんでしたが、全国的にも稀少な事例を追加することができました。地下水が多いという遺跡の立地環境を考えると、土坑の底や壁を地下水から保護するため敷物を再利用したのかも知れません。また、敷物の縁が明瞭な状態で確認された点が特筆され、縄文時代の編物研究における基準資料として今後活用されることが期待されます。（渡邊裕之）



シナノキの樹皮で縁を結び止めた敷物



ねじれた状態で出土したカゴ

保存処理室から

胎内市野地遺跡の編物敷土坑の 保存処理が終了しました

平成22年度に行われた胎内市野地遺跡の発掘調査により、縄文時代の集落から見つかった晩期前葉（今から約3,000年前）の「編物敷土坑」は、当時の編組技術を解明する上で重要な資料であることがその後の調査で明らかとなりました。このため、今後も長期にわたって保管・活用できるよう、平成24年6月から11月にかけて、保存処理を行いました。今回の保存処理は、有機質の編物と土が一体となった大型の遺構を、防カビ・防菌・強化処理する難しい処理であったため、高度な保存処理技術を持つ株式会社文化財ユニオン（東京都）に作業をお願いしました。

作業は、まず編物と土の表面から劣化防止剤や防カビ・防菌剤を染み込ませ、土坑の表面・側面を硬化させます。その後、キャスター付きの展示台にクレーンで移動し、土坑底面にも薬剤を注入します。全体が硬化したら、側面を樹脂で覆ってさらに強化し、最後に土坑の周囲をウレタンや樹脂で整形して仕上げます。

保存処理を終えた「編物敷土坑」は、現在新潟県埋蔵文化財センターの常設展示室で公開しています。ぜひ一度、縄文人の高度な技術を間近でご覧ください。（三ツ井朋子）



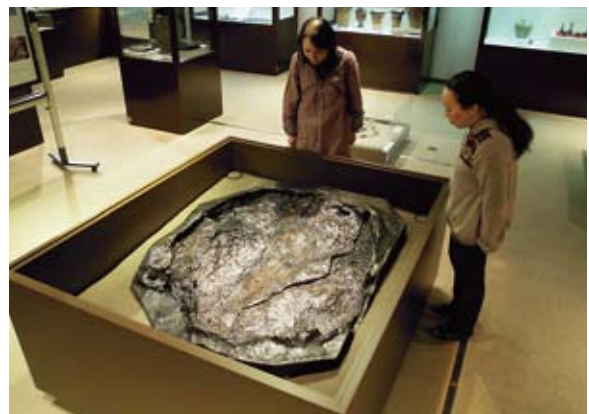
劣化防止剤の塗布



キャスター付き展示台への移設



軽量エポキシモルタルによる側面の強化



保存処理後の編物敷土坑

埋蔵文化財センター展示替えのお知らせ

「野地遺跡編物敷土坑」を新潟県埋蔵文化財センター常設展示室に展示しております。また、エントランスには、平成23年度新潟県立歴史博物館秋季企画展「発掘された新潟の歴史2011」の展示品の一部と、報告書が刊行された湯沢町川久保遺跡（縄文時代中期）の遺物を4月から8月まで展示する予定です。

埋蔵文化財センター周辺には、弥生時代の環濠集落が復元された「史跡古津八幡山遺跡 歴史の広場」や「弥生の丘展示館」、「新潟県立植物園」もあり、春の散策には絶好の場所です。どうぞ、お越し下さい。

埋文インフォメーション

平成24年度 現地説明会を開催しました

平成24年度は6遺跡の発掘調査を行い、村上市・阿賀野市・関川村・新発田市・糸魚川市で5遺跡の現地説明会を開催しました。説明会では、検出した遺構や遺物について調査員が現地で説明し、参加者からの質問に答えました。

開催日	遺跡名	所在地	関連事業	参加人数(人)
6/2(土)	狐屋敷遺跡	村上市	国道7号 小川交差点改良	27
8/25(土)	山口野中遺跡	阿賀野市	国道49号 阿賀野バイパス	80
9/1(土)	カヤマチ遺跡	関川村	国道113号 鷹ノ巣道路	29
10/20(土)	小船渡遺跡	新発田市	国道7号 新発田拡幅	175
10/27(土)	六反田南遺跡	糸魚川市	国道8号 糸魚川東バイパス	150

遺跡の概要

狐屋敷遺跡：室町時代の集落で、柱穴・井戸・土坑・自然流路とみられる溝などを検出しました。遺物には珠洲焼の壺・甕・片口鉢、越前焼の片口鉢、瀬戸焼、青磁・白磁、石臼などがあります。

山口野中遺跡：鎌倉時代後半から室町時代の集落で、掘立柱建物・井戸・土坑、水田とみられる溝などを検出しました。居住域と水田は場所がしっかりと区別されていることから、計画的に土地開発が行われていたことが分かります。遺物には珠洲焼・青磁・鉄釘・鉄滓などがあります。

カヤマチ遺跡：縄文時代早期後半の遺跡です。遺物には条痕文系土器、篋状石器・特殊磨石などがあります。

小船渡遺跡：鎌倉時代後半から室町時代の集落と、平安時代の畑を検出しました。鎌倉時代後半から室町時代の集落では井戸の残りが良く、中から銭貨、法華経が書かれた石など、埋め戻すときのマツリに際して入れられた遺物が出土しました。

※六反田南遺跡は本誌1・2頁をご覧ください。

※現地説明会の当日資料はホームページ (<http://www.maibun.net>) に掲載しております。

多彩な普及活動を終えて

小学校3年生が1人で勾玉を作りました

今回は新潟大学附属新潟小学校で行った出前授業についてご紹介します。

参加者は、3年2組の児童・保護者合わせて71人でした。

「昔の人々の暮らしの工夫から新潟の歴史を学ぼう」が当日のテーマということで、主に縄文時代について解説しました。最初に「縄文時代の衣服」について映像を用いて15分ほど解説を行い、その後児童と保護者に別れて体験に移りました。

センターで行う「勾玉作り」の対象の多くは小学校6年生ですが、今回は3年生です。通常の授業時間2校時分もある90分間以上を作業に集中できるかと不安でした。写真手前では保護者、右奥では児童が体験を行っています。10分ごとに作業内容の説明や、勾玉の由来について話をして、児童たちの集中力が途切れないようにしました。体験学習終了後には、児童は紐を通した勾玉を大切に首にかけていました。

保護者の皆さんは「あんぎん編み」に挑戦です。トウモロコシの皮やい草を材料にして、20cmほどのコースターを作りました。児童と同じ時間で、皆さんが作り終え、オリジナル作品の出来映えに満足されたようです。親子別々の体験を同時に行い、親子共通の話題が作られた講座でした。出前授業の新しい一例です。



出前授業の様子

県内の遺跡・遺物80

奥山荘城館遺跡（昭和59年10月 国指定史跡）

（遺跡所在地：胎内市本郷町ほか）

新潟県北部に位置する奥山荘は、往時撰関家領^{せつかん けりょう}でした。開発は、平安後期の越後平氏城家^{じょうけ}で、建仁元〔1201〕年に鳥坂城^{とっさかじょう}で鎌倉幕府軍によって滅ぼされると、地頭職を得ていた三浦和田一族が在地支配を展開しました。遺跡群は、主に鎌倉御家人の系譜をもつ三浦和田一族が残したものです。荘園は、建治3〔1277〕年に三分され、北から北条^{ほうちょう}（黒川家）、中条^{なかつちょう}（中条家：惣領^{そうりょう}）、南条^{なんじょう}（関沢家^{せきざわ}）に大別されます。

昭和59年に5地点が史跡指定され、以後追加指定を重ね、現在12地点が指定地となっています。指定地は、江上館・坊城^{えがみやかた ぼうじょう}館^{やかた}・鳥坂城^{くらたじょう}・倉田城^{くろかわじょう}・黒川城^{ふるたてやかた}・古館館^{かなやまじょうかん}・金山城館^{なかにじょう}といった城館跡、野中石塔婆群^{のなかせきとう ぼぐん}・蔵王権現^{ざおうごんげん}・小鷹宮^{こたかのみやけいだい}境内地^ち・韋駄天山^{いだてんやま}といった宗教関連遺跡、中世文書に地名がみられる臭水遺跡^{くそうずい}からなります。

これらの指定地は、平成の合併によって、大部分が胎内市内に含まれることとなりましたが、一部関川村や新発田市〔金山城館〕などにも広がっています。以下、調査・整備が行われた遺跡を中心に紹介します。

1. 江上館跡 6年間にわたる発掘調査の後、奥山荘歴史の広場として整備・公開されています。水堀と高い土塁が遺存しており、15世紀代の中条総領家の居館と想定されます。一町四方の主郭の南北に郭が付属する連郭式の館となっており、主郭南北の虎口は、折れを伴う先進的な構造をもっています。主郭内部は、最盛期には北方の日常空間と南方の晴の空間（広場）が塀で区切られており、京の武家屋敷と同じ空間構成をとっていました。出土遺物としては、青白磁梅瓶・朝鮮陶器瓶等をはじめとする大量の貿易陶磁器、都の土器儀礼を示す多数の京都系土器などが注目されます。広場脇に「奥山荘歴史館」が併設されており、奥山荘探訪の起点となっています。

2. 坊城館跡 江上館の200m南からみつかった鎌倉後期の館跡です。平成15年の発掘調査で60数m四方の屋敷地から大規模な総柱建物などがみつかりました。大量の土器や貿易陶磁器が出土し、遺構の規模等から「越後国奥山荘波月条絵図」^{えちごのくにおくやまのしょうなみつきじょうえず}（国指定・重要文化財（美術品））にみられる領主居館に匹敵するものとして、史跡指定が実現しました。現在整備中で、平成26年度開園予定です。

3. 韋駄天山遺跡 平野部に位置する独立丘陵頂部に営まれた中世墳墓です。昭和29年の発掘調査の結果、珠洲焼製の骨壺^{すずやき こつぽ}や層塔^{そうとう}・宝篋印塔^{ほうきょういんとう}・板碑^{いたび}などが発見され、位置関係から黒川家関係の一族墓と考えられます。現在、整備が終了し、平成18年から公開されています。

奥山荘は、豊富な文献が残されていることでも著名であり、著名な荘園絵図が2枚あることでも知られています。加えて、多数の遺跡が現地に残されていることから、中世研究の上で重要なフィールドとなっています。今後は、多くの指定地をどのように結びつけて、活用していくかが課題であり、多くの人々に奥山荘の魅力を知っていただけるよう努力していきたいと思っています。

（胎内市教育委員会 水澤幸一）



江上館跡 整備状況



江上館出土
青白磁梅瓶

埋文にいがた No.82

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地 1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイグラフィック